

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境性能評価用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンスロジエ 牛島町	階数	地上15F
建設地	名古屋市西区牛島町301番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	126 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年6月11日
敷地面積	431 m ²	作成者	
建築面積	212 m ²	確認日	2021年6月11日
延床面積	2,271 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE0.9</p> <p>★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C:★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 99% ③上記+②以外の 99% ④上記+オフサイト手法 99%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>		

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 2.8</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>防犯面、環境面に配慮したつくりとなっている。</p>	<p>その他</p> <p>なし。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>F☆☆☆☆を使用し、汚染物質発生に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>部品部材の耐年数が十分な精度が確保されている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>防犯カメラを設置し、防犯性に配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>住宅性能評価基準の断熱等性能等級の等級3相当を確保している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>リサイクル材の使用に心がけている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>適切な量の駐輪・駐車スペースを確保している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

((仮称)プレサンスロジエ 牛島町)

■使用評価マニュアル:




CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.4	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.2	
2. 自然共生	評価点 = 1.9	
3. 循環型社会	評価点 = 2.9	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。